

ロドリゴとパコ・デルシアの意志を受け継ぐ、世界最高峰ギタリスト 豪華ゲストを多数迎えて贈る、一夜限りのギターとフラメンコの祭典!

Juan Manuel Cañizares

〈演奏予定曲〉

フラメンコ楽曲(カニサレスのオリジナル)

深淵(ブレリアス) El Abismo
静寂な月(ティエントス) La Callada Luna
彗星の雨(ルンバ) Lluvia de Cometas ほか

クラシック楽曲(ギター・アレンジ)

ロドリゴ「アランフェス協奏曲」より
第2楽章アダージョ「アランフェス・マ・パンセ」
「夕暮れのプレリュード」(ロドリゴ未発表作品)
ファリャ「三角帽子」より「隣人の踊り」
ファリャ「はかなき人生」より「スペイン 舞曲第1番」ほか

ロドリゴの魂を現代に甦らせる

1926年に作曲、2018年に発見されたギター作品。ロドリゴ氏の娘であるセシリア・ロドリゴさんの希望で、カニサレスがこの曲の世界初録音を行なった。この未発表曲「夕暮れのプレリュード」と「アランフェス協奏曲」第2楽章アダージョをカニサレスによるギター・アレンジで演奏します!!



セシリア・ロドリゴさんとカニサレス



未発表曲「夕暮れのプレリュード」(Preludio al atardecer)楽譜



カニサレスとセカンド・ギターのファン・カルロスによるデュオ



カニサレス(ギタリスト、作曲家)

Cañizares, guitarrista y compositor

現代フラメンコを代表し、クラシックでもソリストとして活躍するスーパー・ギタリスト、作曲家。1966年バルセロナ生まれ。1989年からフラメンコ・ギターの大匠パコ・デルシアのグループに参加し、セカンド・ギタリストとして10年間世界ツアーを共にする。これまでに15枚のアルバムをリリース。コラボレーション作品は100枚以上に参加。また、作曲家として、スペイン国立バレエの作品や、映画音楽の作曲も手掛ける一方、カルロス・サウラ監督の映画「フラメンコ」や「J: ビヨンド・フラメンコ」には演奏家として出演もしている。近年はオーケストラのための作曲にも力を入れており、「地中海協奏曲」(2018年/バルセロナ交響楽団)や、「アル・アンダルス協奏曲」(2016年/スペイン国立管弦楽団)を手がけた。2011年、サー・サイモン・ラトルが指揮するベルリン・フィルハーモニー管弦楽団にソリストとして招かれ、「アランフェス協奏曲」を演奏した。以来、フラメンコ・ギタリストとしての活動と平行し、世界トップクラスのオーケストラとの共演を重ねている。2015年に新日本フィルハーモニー交響楽団、2017年にNHK交響楽団と共演。2015年に自身のカルテット編成で、2018年にはクインテット編成で全国ツアーを行い、大きな成功を収めた。2019年、待望の新作「カニサレスのロドリゴ」を制作、同作はかの有名なアランフェス協奏曲の第2楽章のアダージョ「アランフェス・マ・パンセ」や、ロドリゴ氏の未発表作「夕暮れのプレリュード」が初収録されたことで、スペインで大きな話題となっている。この最新アルバムを携え、待望の来日ツアーを行う。

スペインが誇る天才フラメンコギタリスト、 パコ・デルシアの真の後継者

カニサレスは1988年から巨匠パコ・デルシアのバンドに参加し、セカンド・ギタリストとして10年の間ツアーを共にした。パコの没後、真の後継者としてフラメンコ・ギターの新たな可能性を切り開き続けている。



パコ・デルシアとカニサレス

「カニサレスの織りなすハーモニーは、伝統的なフラメンコに
新たな可能性を与え、彼の生み出すフラメンコは、
美しく絶妙な音楽に満ちあふれています」

—— パコ・デルシア

カニサレスは、ベルリン・フィルはじめ 世界中のオーケストラと共演

2011年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼芸術監督、サー・サイモン・ラトルの招待を受け、マドリードの王立劇場でロドリゴの「アランフェス協奏曲」を演奏した。この公演はベルリン・フィルとフラメンコ・ギタリストの初共演としてクラシック界でも大きな注目を浴び、以来、世界中のオーケストラに招待されている。



サイモン・ラトルとカニサレス

「ファン・マヌエル・カニサレスは
驚異的なギタリストである」

—— サイモン・ラトル
(元ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者兼芸術監督)

セカンド・ギター ファン・カルロス・ゴメス

Juan Carlos Gómez

1994年、権威あるカンテ・デ・ラス・ミナス・コンクールでギター最優秀賞「ホルドン・ミネーロ」を受賞し、ソリストとしても活躍する実力派ギタリスト。近年では、スペイン各地の音楽院での教授活動のほか、演劇への作曲でも注目を集め、多数のソロアルバムを発表。2007年よりカニサレスのセカンド・ギタリストを務めている。



カニサレスとゴメス

Guest

渡辺香津美

ギタリスト・コンポーザー・プロデューサー

名実ともに日本が世界に誇るトップ・ジャズ・ギタリスト。17歳で衝撃のアルバムデビュー。驚異の天才ギタリスト出現と騒がれて以来、ジャズフィールドに留まらない「ギターの可能性」を探求し続け今に至る。その速いテンポで繰り出される魅惑のアドリブと芳醇な旋律、演奏技術を緻密に組み合わせることで、音の一つ一つに豊かな表現力を含ませ独自の「カズミサウンド」を創り出すことでも定評がある。まさしくワン・アンド・オンリーの存在。現在はジャズ・フュージョンにおける多様なプロジェクト、特に2019-20年に10周年を迎えた「ジャズ回帰プロジェクト」と並行し、アコースティックを中心としたソロワーク「ギター・ルネッサンス」シリーズでのアルバムリリース、ライブツアーを行い、国内、海外を問わず精力的に活動中。ギター生活45周年を記念したアルバム「Guitar is Beautiful KW45」が第29回ミュージック・ペンクラブ音楽賞ポピュラー部門最優秀作品賞を受賞。最新アルバムは奥村愛ストリングスとの共演アルバム「TOKYO WANDERER」(ワーナーミュージック・ジャパン)。洗足学園音楽大学ジャズコース客員教授。
<http://www.kazumiwatanabe.net/>



Kazumi Watanabe

鈴木大介

ギタリスト

作曲家の武満徹から「今までに聴いたことがないようなギタリスト」と評されて以後、新しい世代の音楽家として常に注目され続けている。マリア・カナルス国際コンクール第3位、アレクサンドリア市国際ギター・コンクール優勝など数々のコンクールで受賞。斬新なレパートリーと新鮮な解釈によるアルバム制作はいずれも高い評価を受け、2005年度芸術祭優秀賞(レコード部門)を受賞。ピアソラ没後20年となる2012年に、世界でも例を見ない多重録音による「タンゴ組曲」を収録した「アディオス・ノニーノ〜アストル・ピアソラ作品集」をリリース。最新CDは、ベルウッドレコードより「Daisuke Suzuki the Best 2019」を2019年1月9日にリリース。第10回出光音楽賞、平成17年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。洗足学園音楽大学客員教授。横浜生まれ。
<http://daisukesuzuki.at.webry.info/>



Daisuke Suzuki

SIROCO

フラメンコ・ダンサー

20歳の頃に映画「フラメンコ」を観たことで、フラメンコとの衝撃的な出会いを果たす。スペイン留学を重ねる内に、フラメンコ界のトップアーティストに師事する機会を掴み、研鑽を重ねていく。2011年日本フラメンコ協会新人公演にて奨励賞を受賞したことを皮切りに、舞台・ライブ経験を積み重ね日本のトップアーティストへ。フラメンコダンサーとして活動し15年目となる2017年にスペイン国内で開催されているコンクールへの出場を決意し挑戦。初めての出場にもかかわらず、ロンダ県で開催されている「第23回アニージャ・ラ・ヒターナ・デ・ロンダ」にて日本人男性舞踏手では初優勝という快挙を達成。現在は自身のスタジオがある、関西を中心に、全国的にも教授活動を行い、後進の指導にも力を注いでいる。芸名であるSIROCOはスペイン語で「熱風」を意味する。
<https://siroco.jp/>



Siroco

小林伴子

カスタネット

東京生まれ。幼少の頃よりアジア系民族舞踊を習う。多摩美術大学彫刻専攻卒業。1976年より小島章司に師事。1978年スペイン留学、フラメンコを中心にスペイン舞踊全般を学ぶ。1983年スペイン王立舞踊高等芸術学院(コンセルバトリオ・デ・マドリッド)の公認スペイン舞踊師範資格を民主化後のスペインで東洋人として初めて取得。1985年帰国後高田馬場にスペイン舞踊スタジオを開設。舞踏団と共に公演多数。1991年「赤い靴・私抄」にて文化庁芸術祭賞受賞。2000年2年に亘る「カスターニエラ、カスターニエラ」公演にて河上鈴子スペイン舞踊賞受賞。「スーパーカスターネット」他フラメンコDVD出版多数。小林伴子フラメンコスタジオ「ラ・ダンサ」主宰、日本フラメンコ協会副会長。
<https://www.la-danza.net/>

Tomoko Kobayashi